

# 総合的な学習の時間「閑谷學」1年次実践紹介

授業者：1年次団探究担当者  
 学年：1年  
 単元名：発想法を学ぼう～大谷選手を目指せ～

## 本時のねらい

- ①ケーススタディで発想の練習をし、自らの視野を広げ、今後の探究活動に活かす。
- ②グループで発想法を学ぶことで他人の視点から新たな気づきを得る。

## 授業の流れ

①ウォーミングアップとしてケーススタディを使った発想の練習をします。

②ケースを実際の発想法に落とし込んだ図を確認し、定着を図る。

③実際にいくつかの発想法を学ぶ。

マンダラート：大谷選手が高校1年生の時に作ったマンダラート

|                 |           |           |             |              |               |                  |                  |           |
|-----------------|-----------|-----------|-------------|--------------|---------------|------------------|------------------|-----------|
| 体のケア            | サブリメントを飲む | FSQ90 kg  | インステップ改善    | 体感強化         | 軸をぶらさない       | 角度をつける           | 上からボールをたたき       | リスト強化     |
| 柔軟性             | 体づくり      | RSQ 130kg | リリースポイントの安定 | コントロール       | 不安をなくす        | 力まない             | キレ               | 下半身主導     |
| スタミナ            | 可動域       | 食事 夜2杯朝3杯 | 下肢の強化       | 体を開かない       | メンタルをコントロールする | ボールを前コグリス        | 回転数アップ           | 可動域       |
| はっきりとした目標、目的をもつ | 一番一喜一憂しない | 頭は冷静に心は熱く | 体づくり        | コントロール       | キレ            | 軸でまわる            | 下肢の強化            | 体重増加      |
| ピンチに強い          | メンタル      | 緊張気に流されない | メンタル        | ドラフト1位指名 8球団 | スピード 160km/h  | 体幹強化             | スピード 160km/h     | 肩周りの強化    |
| 波をつくらない         | 勝利への執念    | 仲間を思いやる心  | 人間性         | 運            | 変化球           | 可動域              | ライナー キヤッチ ボール    | ピンチングを極める |
| 感性              | 愛される人間    | 計画性       | あいさつ        | ゴミ拾い         | 部屋そうじ         | アウトポイントを極める      | フォーク完成           | スライダのキレ   |
| 思いやり            | 人間性       | 感謝        | 道具を大切に使う    | 運            | 審判さんへの態度      | 速く足差のあるキャップ      | 変化球              | 右打者への決め球  |
| 礼儀              | 信頼される人間   | 継続力       | プラス思考       | 応援される人間になる   | 本を読む          | ストレートと同じフォームで投げる | スライダのキレから、投げるボール | 奥行きをイメージ  |

④自分を例にして、発想法を実際にやってみる。



⑤OPPシートを使い本時で学んだ内容を振り返る。



## 単元を通して身につけてほしいこと

いくつかの発想法を学ぶことで自分を客観的視点から観ることができるようになり、それまで自分では気づけなかった新しい自分を発見することができます。もちろん想像力が高まるという効果もあります。このように発想法はことは生徒の進路選択などに役立つだけでなく、探究活動においても重要な役割を果たします。更に今回学ぶ発想法に「マンダラート」という方法があり、それは今アメリカのメジャーリーグベースボールで大活躍している大谷選手が高校生の時に取り組んでいたものです。生徒達が自分たちの目標を見つけ、充実した高校生活を送り、輝かしい将来を実現する契機になればと考えています。

## 実践の背景

- 発想を学ぶことは発想力を豊かにし、探究活動に活かせるだけでなく、進路や将来にも役に立ちます。充実した探究活動、高校生活を送るためにも身に付けておきたい力です。
- 発想法は自分を客観視することで今まで気付かなかった自分を発見することができます。また、グループで発想を学ぶことでより客観的な視点からの意見をもらえ、情報を共有できるだけでなく、新しい自分を見つけることが出来るかもしれません。

## 授業改善のアプローチ

- 生徒が単に知識を知るといような授業ではなく、学んだ知識が腑に落ちるような、自分の人生にも応用できるものとしたという点を目標に設定した。
- その為に導入でケーススタディの手法を取り入れることで、発想の実例を身近な例で示すだけでなく、それを発想の型にして示し、理論と実践の橋渡し役にした。
- グループワークをすることで他人と意見を交換するや、自分を表現することを学びとれるようにした。
- 毎授業の終了5分前にOPPシートに、授業の振り返りを記すことで学んだことの整理や、次回に向けての改善を促す。

## 単元の構成

### 単元のヤマ場となる授業場面

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p>第1次（1時間）<br/>閑谷學の説明。閑谷學の名の由来である閑谷学校の説明。また養うべき七つの力の説明。閑谷學を通してどのようなことを学んでいくかを生徒と共有する。</p> | <p>第2次（9時間）<br/>毎時間導入としてケーススタディを学び問題解決の実践例を通し型を学ぶ。発想法（マンドラート、ベン図、マインドマップなど）の知識を学び実践をする。問題解決法を図式化した「オオノチャート」を取得する。また、テーマごとにグループ分けをし、発表に向け準備をする。</p> | <p>第3次（4時間）<br/>夏休みの課題説明や、全体の発表。これまでの知識を活かし、自分たちで考えた問題解決案をアイパッドを使って発表する。</p> |
|--|--|--|

## パフォーマンス課題

- ①発表の内容もさることながら、発表に対する姿勢（声の大きさ、アイコンタクト、熱意など）を意識して発表する。
- ②自分たちが調べたこと、自分たちで考えたこと、自分たちの想いが伝わるような、人の心を動かす、メッセージ性のある発表を目指す。
- ③聴く側は、適正な態度で傾聴する。

## 評価

次の3点を評点とした。

- ①授業に臨む姿勢、態度、意欲、グループへの貢献
- ②単元の内容の理解度、表現力、発表力
- ③OPPシートに対する評価